

特別研修

月例研究会 議事録 (5 月)

2007 年度第 2 回

報告題名 近世農業水利施設の普請と維持管理に関わる藩と村方の関係について —山形五堰を事例として—	
報告者 佐藤章夫 (所属分野) 資源経済専攻	日時 5月24日 午後3時~午後5時 場所 第7講義室
座長 田中	議事録担当者 小山田、飯塚
出席者 米倉、冬木、川島、伊藤、齋藤、両角、木谷、大鎌、石井、佐藤(章)、朴、澁谷、鹿嶋、福田、水澤、小山田、佐藤(文)、田中、鈴木、西橋、飯塚、大森、紺野、高嶋、田口、デッフィ、村松(優)	
報告要旨 <p>現在に至る農業水利慣行の原型は近世時に形成された。近世初期に諸大名は競って新たな水利を開発し新田を拓いたし、農民の側にも近世本百姓が形成されたからである。</p> <p>山形五堰を事例とするのは入り組み支配下にあった山形地域の村々が、どうやって水を配分してきたかを見るに好都合であるからである。</p> <p>水利施設には大工事が必要とされる「普請」とふだんの維持管理、例えば「堰浚い」の2面がある。ここでは主に「普請」について報告したい。</p> <p>普請には藩が主体となる「御普請」と村方が主体となる「自普請」があった。「普請」に必要なものは1資金2資材3労働力であるが、①公共性の高い箇所②工事規模の大きいもの、が原則として御普請の対象になり、さらに築造・大修繕は御普請、維持管理は自普請との分けがあった。資金と資材は藩が支出し労働力は「組合村」を通じて大量の「人足」を動員した。工事責任と監督は藩が負った。</p> <p>しかし実際は村方の要請にもかかわらず、藩は財政事情から、資金を一部負担するだけで村方による「自普請」にさせようとした。ただし工事資材は藩が提供した。工事監督の実権も村に任せた。</p> <p>延数千人に及ぶ労働力調達はどうしたのか。村々は近世初期から幕府の定法として村高百石につき50人の人足出役の義務を負った「組合村」に編成されており、工事の箇所および規模によって当該藩の要請により領地横断的に出役した。一方、当該村にしても、こうした応援人足調達の仕組みを利用して他の村々に出役を要請した。</p> <p>近世後半期には、よほどの大工事でもない限り、実際は村方による自普請で行われることが多くなった。その背景には工事設計書(目論見書)の作成から土木技術に至るまで、村方でできる力がついてきたことがあげられる。ただし、たとえ結果的に自普請になろうとも藩は工事の許可と結果の認可権は保持した。村方は工事の大小を問わず、先ず藩に御普請を要請したからであった。村方は近世を通じてこうした藩との交渉術を身につけていった。</p> <p>一方、堰筋もしくは水系毎の「水組合」も別途存在して、自主的自治的に普段の維持管理に有効に機能しているが、これに比して「組合村」の編成は水系や領主支配や遠近とはまったく無縁に編成されており、なにが組み合わせの要素になったのか、私の今の研究段階ではわからない。</p> <p>「組合村」は御普請に関わる重要な要素にとどまらず、村方自治を具現していく媒体として重要な役割を演じているという、学説も出ているところなので今後考究していきたい。</p>	

質疑・応答

田中「組合村についてですがこれは組と対応関係があるんですか」

佐藤（章）「組合村には、村の名前ではなく、組の名前がついているんです。資料の3・4ページにありますね。人足調達組織の組合村の一員の村だから、村としないで組としているんだと思います。この点、もう少し考えてみたいと思いますが」

大鎌「組というのは、近代になってもかなり多様に使われている言葉です。代表する庄屋の名前をとって組としたり、村グループを組ということもありますし、村の中の組織を組ということもあります。ですから、組という言葉は、資料での言葉の使われ方に注意したほうがいいと思います」

冬木「組は個別の村の中の機能組織である、という仮説は成り立たないでしょうか」

佐藤（章）「前に発表した佐藤文吉さんの場合、商人というのは生産者グループをまとめたがるものなので、繭買い付けの対象となる生産者グループが組になるわけです。しかし、ここでは村全体を把握しないと、人足調達組織としての機能が働かなくなります。ですから、商人が組織するような機能組織とは少し違ってきます。村々が集まって『組合村』という機能組織を形成したということです」

冬木「あと、領主との関係で、山形の特殊性がありますよね。つまり、領主権力が分立しているわけですが、それらをまたがった村々の組織があったとすると見やすくなりますよね。そういう一元支配と比較するようなことはやらないんですか」

佐藤（章）「例えば仙台伊達藩では、経費の面で、農業施設の維持管理等の負担割合は藩と村方と町方が三分の一ずつとなっていて、それがずっと明治初期まで続きます。組組織があったかどうか私は把握していません。山形地域の場合、江戸時代の初めのうちは24万石の大藩だったので村山地方一円を支配していました。そのときに支配下の村々を勝手にグルーピングしたんじゃないかと思います。確かではありませんが」

田中「報告の中で色々な組織が出てきていますが、それらの関係について図などで整理していただけたらわかりやすかったと思います」

佐藤（章）「私の中では整理されていますので、次回からはわかりやすくしたいと思います」